

令和7年第1回定例会

市長施政方針に対する代表質問通告一覧表

会派名(氏名)	番号	質問事項	質問の具体的な内容
1. 公明党 (佐竹 康彦)	1	市長任期1期目の後半に臨むにあたっての市長の決意に関して	<p>① 任期前半の大きな財政負担を伴う事業の実現など各取組を振り返り、今後の市政経営上の課題として、どのようなことを想定しておられるのか、市長の認識を伺う。</p> <p>② 市長就任後の2年間で浮き彫りになった市政の課題について、この後半2年間にどのような取組を行う決意でおられるのか。</p> <p>③ 市長が市政経営のキーワードとして掲げられている「今のありがとうだけでなく、未来のありがとうのために」のもと、どのようにその精神を自治体経営に具現化していこうと考えておられるのか。今いる市民に時に痛みを伴う場面もあると考えるが、市政経営に対する市民の理解促進を図る取り組みとして、どのようなことを考えておられるのか。</p>
	2	市政における難題への取組状況等について	<p>① 人事と組織の改革について</p> <p>ア 市長の理想とする行政職員の在り方とはどのようなものか。</p> <p>イ 市長の理想とする人材像に向けた育成を進めるため、人材育成に関するKPIの設定についてどのように考えておられるのか。</p> <p>ウ これまでの新たな人材確保の成果を踏まえ、令和7年度の人事採用の方針をどのように考えておられるのか。</p> <p>② 市財政について</p> <p>ア 市長は過度な財政調整基金への依存に財政運営の限界を痛感したと述べられた。その限界とはどのようなものであったのか。</p> <p>イ 自治体間競争の色合いが濃い施策推進の傾向性が強くなっているとの認識を示されたが、その中で実現すべき優先度の高い分野はどのようなものであると考えているのか。</p> <p>ウ 歳入増を目指す上で、どのような業種の企業にアプローチしようと考えておられるのか。</p> <p>③ 公共施設の老朽化対策について</p> <p>ア 従前の公共施設の老朽化対策に関して、どのような点が不十分であったと認識しているのか。</p> <p>イ 策定を目指す「再配置計画素案」は、そのコンセプトをどのようなものにしようと考えているのか。</p> <p>④ DXの推進について</p> <p>ア 「デジタル市役所元年」との意気込みでDX化を進めていくとのことだが、その及ぼす影響を鑑み、職員の仕事の在り方や各種市民サービスがどのように変化していくと捉えているのか。</p> <p>イ DX化業務を持続的に支えていく市内の人材育成をどのようにしていこうと考えておられるのか。</p>

<p>(公明党)</p>	<p>3</p>	<p>重要施策について</p>	<p>⑤ 組織改正について</p> <p>ア 令和7年度は、市長のリーダーシップのもと、市政を「運営」する在り方から「経営」していく在り方へと大きく変換させていくための組織改正を断行していくものと推察する。市長の考える、市組織を大きく変化させることの必要性和、組織改正を経て向かうべき「行政経営」の方向性とはどのようなものか。</p> <p>① 子ども・子育て支援施策の推進について</p> <p>ア 「東大和市子ども・若者未来プラン」の初年度として、子どもや若者・子育て世帯の視点を尊重する姿勢を述べられた。そのための、当事者の声を受け止める仕組み作りと意見集約が必要と考えるが、どのような取組をしていくのか。</p> <p>イ 妊産婦や子育て世帯への支援について</p> <p>a 産後ケア事業における新たな取組の内容とそれが生み出す施策効果はどのようなものか。</p> <p>b 新設される「子ども家庭センター」の設置意義とその役割の詳細、「相談体制」の充実をどのように図っていくのか。</p> <p>c 「多様な他者との関わりの機会の創出事業」の推進について、その詳細と期待する施策効果はどのようなものか。</p> <p>ウ 子どもたちの健全育成について</p> <p>a 令和7年度における学童保育所の待機児童解消への取組と、放課後の児童の居場所づくりに関する具体的展開はどう検討されていくのか。</p> <p>b P T Aの解散がここ数年いくつかの学校で行われ、子どもの育ちを地域で支える在り方として懸念の声がある。地域で子どもの健全育成に関わる在り方として、各校で展開されている「コミュニティ・スクール」はその活動の一翼を担う場合があると考えますが、市の見解はどのようなものか。</p> <p>エ 学校教育について</p> <p>a G I G Aスクール構想の推進で端末更新がなされるが、さらなる活用とその充実を図っていくことについて、その詳細を伺う。</p> <p>b さらに外国語教育の充実を加速していくための取組と、その成果を市内外へ発信する在り方について伺う。</p> <p>c 理数教育の充実について、全体の底上げと同時により高いレベルを目指す取組を強化してほしいと考えるが市の見解はどうか。</p> <p>d 読書活動の充実について、学校図書館の資料充実の方途と児童生徒への読書指導の在り方について伺う。</p> <p>e 体験活動充実への新たな取組について、その意義と群馬県赤城高原で行われる「移動教室」の内容について、検討された中身はどのようなものか。</p>
--------------	----------	-----------------	---

<p>(公明党)</p>		<p>オ 学校給食費の無償化について</p> <ul style="list-style-type: none"> a 学校給食費無償化を受けて、アレルギー対応食のさらなる充実に関する市の見解はどのようなものか。 b 児童生徒や保護者・市民への学校給食事業に対する理解促進の必要性に関して、市の見解はどのようなものか。 c 残渣率の減少は重要な課題だが、取組はどうしていくのか。 <p>カ 第七・第九小学校の統合へ向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> a 統合へ向け令和7年度において、新たにどのような取組をされるのか、その在り方について伺う。 b 物価高騰の大きな影響によって、事業実施の財政的側面に大きな課題が生じていると認識している。どのようにこの課題を克服していくのか、その方途について伺う。 c 統合へ向けた事業進捗のスケジュール観を伺う。 <p>② 健康・高齢者施策の推進について</p> <p>ア 保険・医療について</p> <ul style="list-style-type: none"> a がん検診の強化について、胃カメラによる内視鏡検診の詳細と他のがん検診の充実強化に関する市の見解はどのようなものか。 b 疾病予防について、帯状疱疹ワクチンや小児インフルエンザワクチンの接種費用助成を進めるが、国や東京都との制度と重なる部分等に関して、どのように制度の棲み分けをし、効率的な運営を行うのか。 <p>イ 高齢者福祉について</p> <ul style="list-style-type: none"> a 認知症高齢者への介護サービスの受け皿となる、認知症高齢者グループホームや小規模多機能型及び看護小規模多機能型居宅介護施設の充実に関して、どのような取組を行っていくのか。 b 介護サービスの需要増が予想される中、市として介護保険料の抑制にどのように努めていくのか。 c 認知症基本法の趣旨に則り、高齢者と現役世代がともに健康で豊かに暮らしていくための共生社会の構築を目指した施策強化について、市の見解はどのようなものか。 <p>ウ 生涯学習及びスポーツ、レクリエーションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> a 新たに市長部局がスポーツ分野の事務事業を所管することに関し、行政経営上の効果や市民生活へのプラス面の影響はどのようなものか。 b 今後の効率的・効果的な公民館運営の在り方として、ファシリティマネジメントの手法による取組を進めることを検討すべきと考えるが、市の見解はどのようなものか。 <p>③ 都市の価値を高める施策の推進について</p> <p>ア 防災について</p> <ul style="list-style-type: none"> a 自然災害に対して、市民や市職員の災害時
--------------	--	--

<p>(公明党)</p>		<p>の対応能力を向上させていく取組をどのようにしていく考えか。</p> <p>b 消防団員の人員確保に、どのような方策を検討されるのか。</p> <p>c ボランティア活動の拠点や避難場所となる施設、災害用備品等の充実に関する市の見解はどのようなものか。</p> <p>d 災害時の避難先となる学校体育館の避難所機能強化への取組はどのようなものか。</p> <p>イ 都市づくりについて</p> <p>a 主要な拠点の形成に関し、令和7年度の取組目標とその詳細はどのようなものか。</p> <p>b 持続可能な地域公共交通ネットワークの維持発展を念頭に、その構築に向けた多様な分野との連携・協働の推進に対する市の認識はどのようなものか。</p> <p>c 市内に点在する国有地・都有地・市有地の有効活用に関する取組をどのようにしていかれるのか。</p> <p>ウ 空家の適正管理について</p> <p>a 「東大和市特定空家等及び管理不全空家等の認定等に関する条例」に基づいた空家の適正管理を進めるべく、令和7年度において、その事業目標をどのように設定されていくのか。</p> <p>b 適正管理事業の相談体制の充実と強化はどのように進めていかれるのか。</p> <p>エ 狭山緑地の活用について</p> <p>狭山緑地を最大限に活用した市の魅力向上と市内外へのアピール策について、令和7年度はどのような取組を推進していかれるのか。</p> <p>オ 市内公園のあり方について</p> <p>インクルーシブ公園の設置推進の取組をどのように展開していかれるのか。</p> <p>カ 商工業、勤労者支援について</p> <p>a 市内創業に対しどのような優遇政策を行っていくか、その充実に向けた方途を伺う。</p> <p>b 企業誘致やスタートアップ企業支援の在り方をどのように考えているのか。</p> <p>④ 持続可能な行財政運営等の推進について</p> <p>ア 持続可能な自治体経営に必須となる安定的な歳入の確保について、今後どのような取組が重要となっていくと考えられるのか。</p> <p>イ 令和7年度のDX推進事業において、取り組むべき具体的な事例に関し、その詳細と行政改革上の効果はどのようなものか。</p> <p>ウ 市職員の働き方改革推進において、職員の意識の改革、職員の行動の改革、職員に対する評価の改革をどう行っていくのか。</p> <p>エ 公共施設等マネジメントに関し、令和7年度内に取り組むべき事案はどのようなことなのか。また公共施設の再編について、市民への丁寧な意見聴取と理解促進を求めるが、見解を伺う。</p> <p>オ インフラの老朽化による道路や下水道の破損等の事故を未然に防ぐことについて</p>
--------------	--	---

<p>(公明党)</p>	<p>4</p>	<p>令和7年度に取り組む主要施策について</p>	<p>a 市内道路の舗装修繕計画をいかに順調に進めていくのか。</p> <p>b 下水道の適正管理の効率化に資するため、AI診断を活用した管路劣化診断への取組に対する市の認識を伺う。</p> <p>カ 協働・情報共有について</p> <p>a 市長の目指す市政経営の理解促進のため市民との対話は重要な取組だが、これに関する市長の認識はどのようなものか。</p> <p>b LINEをはじめ各種SNSの活用に関する取組の詳細を伺う。</p> <p>c 特に若い世代に訴求力のある映像による市政情報の発信に関して、令和7年度はどのような取組を進めていく考えか。</p> <p>① 「健康であたたかい心のかよあうまちづくり」について</p> <p>ア 「手話言語条例」の制定に関し、条例に基づく事業内容とその効果をどのように見込んでおられるのか。</p> <p>イ 令和7年度に国内初となる東京でのデフリンピック開催について、東大和市がボウリング競技開催地となるが、取組への意気込みを伺う。</p> <p>ウ 避難行動要支援者名簿に登録されている要介護認定3以上の方などの「個別避難計画」の作成について、令和7年度中にどこまで進めていこうとされているのか。</p> <p>エ 公明党が一貫して要望・推進をしてきた健康ポイント制度について、現在の「ヘルスアップビンゴ」の参加増進と制度としてのブラッシュアップに関して、どのような考えをもっているのか。</p> <p>② 「心豊かに暮らせるまちづくり」の推進について 旧日立航空機株式会社変電所を活用した平和事業や、市民団体と連携した文化・芸術に関する事業などの各種施策の充実を、令和7年度はどのようにしていくのか。</p> <p>③ 令和7年度予算編成について</p> <p>ア 令和5年度決算の状況を受け、令和7年度における経常収支比率の改善への取組と、その目標とすべき数値について伺う。</p> <p>イ 令和6年度には国債の購入など、資産運用の取組を開始したが、令和7年度においては、適切な基金の積立てや、その積極的な運用等について、適正で健全な基金運用にどのように取り組まれていくのか、その詳細について伺う。</p> <p>ウ 事務事業評価の内容を、今後の予算編成に的確に反映させる取組について、市はどのような方策を検討しておられるのか。</p>
<p>2. 立憲国民クラブ (二宮 由子)</p>	<p>1</p>	<p>重要施策4点について</p>	<p>① 「子ども・子育て支援施策の推進」について</p> <p>ア 「子ども家庭支援センター」から「子ども家庭センター」への移行により期待される効果と今後の課題を伺う。</p> <p>イ 子育て環境に関し、多様な他者との関わりの機会の創出事業の詳細を伺う。</p>

<p>(立憲国民クラブ)</p>	<p>2</p>	<p>「健康であたたかい心のかよいあうまちづくり」について</p>	<p>ウ 「オンライン英会話学習」や「東京グローバルゲートウェイ グリーンスプリングス」での体験学習の効果と課題を伺う。</p> <p>エ 第七小学校と第九小学校の統合に向けてのスケジュール等の詳細を伺う。</p> <p>② 「健康・高齢者施策の推進」について</p> <p>ア 胃がん検診における内視鏡検査の導入に関し、助成金額や対象人数の詳細と期待される効果を伺う。</p> <p>イ 「認知症高齢者グループホームの整備促進事業補助」に関し、建設場所や施設規模などの詳細を伺う。</p> <p>③ 「都市の価値を高める施策の推進」について</p> <p>ア 東大和市総合防災訓練に関し、見直される内容の詳細と今後の方向性を伺う。</p> <p>イ 自主防災組織の活動継続のための活動計画の作成や見直し等、行政からの働きかけの必要性などの認識を伺う。</p> <p>ウ 桜の回廊の整備についての進め方を伺う。</p> <p>④ 「持続可能な行財政運営等の推進」について</p> <p>ア 令和7年度における「東大和市DXプラン」の具体的な取組内容と効果を伺うのとあわせて、今後の課題を伺う。</p> <p>イ 職員の民間企業への派遣に関し、派遣先や人数・期間などの詳細と効果及び課題を伺う。</p> <p>① 『東大和市手話言語条例』の制定により、向上を期待される行政サービスの取組の詳細を伺う。</p> <p>② 避難行動要支援者名簿に登録されている要介護認定3以上の方などの『個別避難計画』の作成に関し、スケジュールや作成方法など詳細を伺う。</p>
<p>3. やまとみどり (中野志乃夫)</p>	<p>1</p>	<p>山積した難題について</p>	<p>① 「市財政」について、厳しい財政の中で子どもの医療費、給食費の無償化に踏み切ったことを高く評価しますが、そういった財源対策のためにも創業や企業誘致など市内にお金の流れを生み出す施策を行うことについて具体的にどのような施策を考えているのか伺います。</p> <p>② 「公共施設の老朽化対策」ですが、「再配置計画素案」の策定とあります。学校を含めた複合施設を想定しているようですが具体的なプランを伺います。</p> <p>③ 「DXの推進」では「行かない市役所、書かない市役所」を評価しますが、この取組は、全部署で行う予定なのかどうか伺います。</p>
	<p>2</p>	<p>重要施策について</p>	<p>① 「子ども・子育て支援施策等の推進」「子どもたちの健全育成」「学校教育」の対応について、市は、まず、子育ての環境を整備することが大切です。しかし、市は、このたび「子ども家庭支援センター」の移転に伴い、かるがも一時預かりなど、子育て支援に欠かせない事業を廃止することを決定しています。</p> <p>この事業廃止によって多くの子育て世帯が厳しい状況にあることをどのように評価し、その対策を行うのか、伺います。</p>

<p>(やまとみどり)</p>			<p>② 「学校教育」の対応について、具体的に一人一台の端末を更新し、ICTを活用してさらに充実させ、確かな学力の育成を図る、としています。</p> <p>ただし、この流れとは対照的にICT教育の先陣を切っていたスウェーデンが10年以上の実践の結果、児童の読解力が低下したとして本を読む時間、手書きの練習に重点をおくことに大転換したところではあります。</p> <p>この点も踏まえ、今後のICT教育についての見解を伺います。</p> <p>③ 「健康・高齢者施策の推進」について、「保健・医療」「高齢者福祉」「生涯学習及びスポーツ、レクリエーション」の項目の中でスポーツと観光事業などとの連携による地域活性化、介護予防、健康長寿事業との連携とありますが、具体的にどのようなことを想定しているのか、伺います。</p> <p>④ 「都市づくり」について狭山緑地の「フィールドアスレチック改修事業」は東大和市をPRする大変重要な取組だと考えます。現在計画しているローラースライダーが集客につながるのか大変疑問があります。もう一度全体プランを見直して計画を見直す必要があると考えますが市の考えを伺います。</p> <p>⑤ 「持続可能な行財政運営等の推進」ですが、公共施設の再編について組織の枠を超え、オール東大和市役所で検討を進める、とありますが、具体的にどのような再編を考えているのか伺います。</p> <p>⑥ 施政方針の最後に、東大和市の現状について団塊の世代が全員75歳以上となり、国民の5人に1人が後期高齢者となる、生産年齢人口の減少で医療と介護の需要の急増、社会保障費の増大や労働力不足などで「市税収入の減少」や「扶助費増大」などの強い危機感が述べられています。</p> <p>しかし、元気な高齢者も多く、その力を活かすことが東大和市を魅力ある街にする大きな鍵となると考えますが、市長の見解を伺います。</p> <p>⑦ 長年にわたり条例改正を提案していた道路占用料の値上げについて、ようやく見直しができることとなりました。</p> <p>「1円でも無駄にせず」という決意があるのであれば、今後も前例踏襲に囚われない考えが必要であると考えますが、市長の見解を伺います。</p>
<p>4. 自由民主党 新政会 (森田 博之)</p>	<p>1</p>	<p>総括として</p>	<p>① 1年を振り返り、自身の市政運営について、これまでの施策をどのように評価しているか伺います。</p> <p>② 未来につながる市政を目指す上で、現在の時代のトレンドをどのように捉えているか伺います。また、今後のトレンドについても市長のお考えを伺います。</p>
	<p>2</p>	<p>山積した難題について</p>	<p>① 「人事と組織の改革」について</p> <p>ア 市長は、「人を活かす人事改革」を掲げ、職員の育成や組織のマネジメントに様々取り組まれてまいりました。その成果を今後、具体的にどのような市政運営、市民サービスの向上に活かしていきたいと考えているのか伺います。</p>

<p>(自由民主党 新政会)</p>		<p>イ 現在、平成27年4月策定の東大和市人材育成基本方針(第2期)、並びに、平成25年1月に策定した東大和市人材育成実行プランがありますが、新たな策定の予定はあるのか伺います。</p> <p>② 「市財政」について</p> <p>ア 物価高騰や人手不足が市財政に影響を与え、令和7年度予算編成では、職員人件費と校務用ネットワークの更新費用の増大が課題となり、また、財政調整基金に依存する運営にも限界を感じているとしています。さらに、令和5年度決算の経常収支比率の悪化も見逃せない状況であり、自治体間競争の最前線となっている子どもの医療費や給食費の無償化も、市の財政負担を押し上げている現状とのことであります。こうした財務の課題を跳ね返すため、市長は、職員とともに、創業支援、企業誘致、市内にお金の流れを生み出す施策を整えて行くとのことであります。これらの施策について、市長の財政運営における認識と具体策について伺います。また、職員の人材育成及び組織マネジメントが「創業支援」「企業誘致」「市内にお金の流れを生み出す施策」とどのように結びついていくかについても伺います。</p> <p>③ 「公共施設の老朽化対策」について</p> <p>ア 学校をはじめとする公共施設の老朽化に伴う更新には膨大な費用がかかり、物価高騰も考慮すると、大きな課題であると認識しております。市長は、この課題を打破するため、令和7年度半ばを目処に『再配置計画素案』を策定するとしています。そこで、第七小学校と第九小学校の統合にあたって、市長の考えを改めて伺います。また、単なる床面積の削減ではなく、未来につながる魅力ある計画を目指すとのことですが、これまでの公共施設の20%を削減する計画からの方針転換と考えてよいか。市長の考えを伺います。</p> <p>④ 「DXの推進」について</p> <p>ア この1年、市はDXの推進に果敢に取り組みられて来られたと認識いたします。令和7年度は、更に加速化させ、名実ともに「デジタル市役所元年」にするとのことであります。急速なデジタル化でデジタルリテラシーの格差が課題と考えますが、その取組について伺います。また、自治体におけるDX推進の最大のメリットは、行政サービスの効率化と住民の利便性の向上にあると思います。さらに進んでいけば、データ活用による政策立案、災害時の対応力向上、市民とのコミュニケーションの強化などが考えられると思いますが、今後の取組みについても伺います。</p> <p>⑤ 「組織改正」について</p> <p>ア 令和7年4月に実施する組織改正は、未来につながる新たな組織として、様々な難題に本格的に取り組める組織改正だと認識しております。市長の不退転の決意が伝わってまいります。市長の考える組織の在り方について伺います。</p>
------------------------	--	---

<p>(自由民主党 新政会)</p>	<p>3</p>	<p>重要施策について</p>	<p>① 「子ども・子育て支援施策の推進」について ア 子育て環境について、保護者の多様なニーズに応えるため、「多様な他者との関わりの機会の創出事業」の実施施設の拡充とありますが、現状と今後の具体的な計画について伺います。 イ 子どもたちの健全育成について、現在の学童保育所、ランドセル来館、放課後子ども教室の充足状況について伺います。また、各事業間の連携状況とその課題についても伺います。 ウ 学校教育について、市内全小学校第5学年を対象に群馬県の赤城において「移動教室」を実施するとされています。これまでの移動教室の実施状況、そして今回、全小学校で群馬県の赤城に実施先を決めた理由について伺います。また、保護者負担についても伺います。</p> <p>② 「健康・高齢者施策の推進」について ア 保健・医療について、胃がん検診につきまして、新たに「胃カメラによる内視鏡検診」が導入されますが、現在の市民における胃がんの罹患状況と、この施策によって期待される効果について伺います。 イ 高齢者福祉について、東大和市における認知症のある高齢者の状況と、地域包括ケアシステムにおける現在抱えている課題について伺います。 ウ 生涯学習及びスポーツ、レクリエーションについて、スポーツにつきまして、市長部局に移管することで、スポーツと観光事業や介護予防、健康長寿事業との連携などを検討しているとのことですが、令和7年度、具体的に考えているものがあれば伺います。</p> <p>③ 「都市の価値を高める施策の推進」について ア 防災について、災害対応力の強化につきまして、計画の実効性を高めるため、職員の発災時における対応力を高めるということですが、市民への災害状況など情報提供について伺います。 イ 都市づくりについて、『立地適正化計画』と『地域公共交通計画』の一体的な策定にあたり、調査や地域ニーズ、課題の把握等、その手法について伺います。 ウ 商工業、勤労者支援について、産業振興につきまして、施政方針において、「財務の課題を跳ね返すためには、様々な業種の創業や企業誘致をはじめ、市内にお金の流れを生み出す施策を、職員とともに整えていくことが欠かせない。」と述べられました。そこで、市内創業の促進、企業誘致、スタートアップ企業の支援に関して、具体的にどのような調査、情報収集を行うのか伺います。また、あわせて市長の考えも伺います。</p> <p>④ 「持続可能な行財政運営等の推進」について ア 働き方改革について、職員を民間企業に派遣し、民間企業の考え方や働き方を習得するとありますが、市長は民間企業の考え方や働き方をどのように捉えているのか伺います。また、それを市政運営にどのように活かしていくかについても伺います。</p>
------------------------	----------	-----------------	--

<p>(自由民主党 新政会)</p>	<p>4</p>	<p>「健康であたたかい 心のかよいあうまちづ くり」について</p>	<p>イ 「協働・情報共有」について、市における協働の現状についての認識をお持ちか伺います。</p> <p>ウ 情報共有について、市報が全面リニューアルされるとのことですが、これまでの課題は何であり、どのようなリニューアルになるのか、また、全戸配布に至った理由やリニューアルによってどのような効果が期待されるのか伺います。</p> <p>① 障害者福祉施策について、『東大和市手話言語条例』の制定、2025 デフリンピックのボウリング競技に向けた機運醸成の取組、手話や聴覚障害者への理解促進について、具体的な展開を伺います。</p>
<p>5. 自由民主党 (蜂須賀千雅)</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>人事と組織の改革について</p> <p>重要施策について</p>	<p>① 市長の人材育成に関するこれまでの様々な将来を見据えた取組姿勢は評価をしている。市長就任後の人事と人材育成の最大の課題を何と捉え、その課題解決のために、今後市長が描くさらなる取組の詳細は何か。また、今後の会計年度任用職員の採用と人材育成についての詳細とは何か。</p> <p>① 子ども・子育て支援施策の推進について</p> <p>ア 子育て相談体制および子育て環境について、会議棟に設置する「子ども家庭センター」と大和南保育園跡地の「子育てひろば」の体制を強化することで、「かるがも一時保育室」と「かるがもひろば」の利用者に不便をかけることはないと考えているのか。</p> <p>イ 学校教育について、これまで小学校5年生の移動教室は、毎年10校中4校程度の実施しかなかった理由は何と捉えているか。また、令和7年度は10校が必ず実施されると考えて良いのか。</p> <p>② 健康・高齢者施策の推進について</p> <p>ア 胃がん検診に新規事業として、胃カメラによる内視鏡検診の実施に至った検討の詳細と、その他のがん検診でも通常の検診にあわせて、さらにエコー検査を行うことで、より早期発見につながると推奨される検診もあるが、今後の施策の検討状況は</p> <p>イ 生涯学習及びスポーツ、レクリエーションについて、スポーツと介護予防、健康長寿事業との連携についての詳細は</p> <p>③ 都市の価値を高める施策の推進について</p> <p>ア 防災について、地域防災計画の市民への徹底した周知方法と、さらなる防災力の推進のために、地域が自主的に「地区防災計画」への取組を積極的に行うことにつながるように、市が地域をサポートする取組をどのように考えるか。</p> <p>イ 地域公共交通計画の策定について、昨今のドライバー不足により他の自治体では委託バス会社からの減便や路線廃止の申出が多く、運営に大変苦慮している自治体が多くなっているが、市が考える今後の地域公共交通の将来像については</p>

<p>6. 共につくる 東大和 (上林真佐恵)</p>	<p>1 市民の暮らしを守る 市政運営について</p> <p>2 補聴器購入補助について</p> <p>3 気候危機対策、地球 温暖化対策について</p>	<p>① 政府の令和7年度予算案は、防衛関係費だけは前年度比9.5%増となっている一方で、社会保障、文教・化学、公共事業、中小企業などは物価上昇率に届かない実質マイナス予算となっています。それだけに、「住民の福祉の増進を図る」地方自治体の役割は極めて大きいと考えます。自治体間競争で「選ばれる自治体」「生き残る自治体」を目指す前に、競争に勝ち残らなければ存続できないような財政措置の抜本的な引き上げこそ要求すべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>② 18歳までの医療費完全無償化に続き、学校給食無償化に踏み切ったことを高く評価します。これらを自治体間競争の最前線と捉えるのではなく、「住民の福祉の増進を図る」という地方自治の本旨に立って、国民健康保険税・下水道料金・家庭用ごみ袋の値下げ等、さらなる市民負担の軽減をはかるべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>① 東京都が、2026年度には都内全ての自治体で高齢者の補聴器購入補助制度を創設することを目指し、都の補助金を包括補助の1メニューから「高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業」として拡充しました。当市でも早急に実施に踏み出すよう求めますが、市長の見解を伺います。</p> <p>① 政府は2月18日、「エネルギー基本計画」と「地球温暖化対策計画」を閣議決定しました。「可能な限り原発依存度を低減する」の文言を削除し、再生可能エネルギーとあわせ「最大限活用する」と打ち出しました。2040年度の電源構成では、原発の割合を2割程度とし、現在再稼働中の2倍以上にする計算です。東日本大震災、能登半島地震の痛切な教訓を踏まえ、市民の命と暮らしを守る立場から原発ゼロへ進むべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>② 政府が決めた温室効果ガス排出量削減目標は、2035年度の排出量を2013年比で60%削減するという極めて低いものです。「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の第6次評価報告書では、気温上昇を産業革命前と比べて1.5度以内に抑えるためには、2013年比で66%削減が必要としており、日本共産党は世界第5位の排出大国として75%から80%の削減目標を掲げるよう求めてきました。地球温暖化対策は、地球と人類の存続に関わる最重要課題と考えますが、見解を伺います。</p> <p>③ 東大和市では、3月までに地球温暖化対策実行計画が策定され、東大和市行政と区域全体での温室効果ガス排出量削減目標と計画がようやく決定します。しかし、計画策定そのものが大きく立ち遅れており、近年は行政の温室効果ガス排出量が削減どころか増加傾向にあること、また、国際的にも目標が大きく引き上げられたことなどを踏まえ、計画を毎年ブラッシュアップし、実効性を高めることが求められると考えますが、市長の見解</p>
-------------------------------------	---	---

<p>(共につくる 東大和)</p>			<p>を伺います。また、気候市民会議の設置、太陽光発電設置補助制度の創設、市民向けの省エネ・再エネ相談窓口の設置などを求めますが、あわせて見解を伺います。</p> <p>4 子どもの権利を保障する学校教育について</p> <p>① 小中高生の自殺が過去最多を更新し、不登校児童生徒も増加の一途を辿っています。子どもの権利、とりわけ意見表明権を保障する立場で、子どもの意見を校則や制服、宿題や授業の進め方、行事など学校生活に生かすべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>② 教職員が子どもひとりひとりに寄り添う時間的・精神的余裕を持てるよう教職員の大幅増と負担軽減を進めるとともに、さらなる少人数学級の推進が急務だと考えますが、見解を伺います。</p> <p>5 市民に開かれた市政運営について</p> <p>① 4か月で予算が3倍になった狭山緑地フィールドアスレチック、15日間で教育委員会の検討を覆し利用料金が1.8倍になった清原中央公園運動広場、突然の廃止となり利用者に多大な負担となった、子ども家庭支援センターのかるがもひろば、かるがも一時保育室など、いずれも市民に開かれた市政運営と逆行するものであり、議会軽視だと考えますが、見解を伺います。</p> <p>6 「人事と組織の改革」職員の働き方とジェンダー平等について</p> <p>① 2004年の正規職員1人当たりの平均給与額は、過去の答弁によれば、給与総額を職員数539人で割って、739万532円。2009年は同様に、職員数466人で割って、677万7,335円ということでした。直近では、職員は何人で、平均給与額はいくらになるのか、また課題をどのように認識しているのか伺います。</p> <p>② 2024年7月に「東大和市特定事業主行動計画（第4期）に基づく取組状況等」が公表されています。男性の給与に対する女性の給与の割合は、「任期の定めのない常勤職員」で89.7%、「任期の定めのない常勤職員以外の職員」で77.3%、全職員では61.7%となっており、昨年度と比べ男女の賃金格差は拡大しています。非常勤職員の88.1%が女性だという現実が背景にあり、市内のジェンダー格差を早急に解消すべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>③ 来年度に向け会計年度任用職員の大量雇い止めが進められています。恒常的な仕事は正規職員が担うべきであり、非正規職員の正規化とともに待遇を正規職員並みに引き上げることが必要と考えますが、見解を伺います。</p> <p>④ 自治体職員が担っている業務は、市民の暮らしだけでなく、時には生きることそのものを支えるかけがえのないものです。成果が数値として表れなかったり、効率が悪いようにみえても、目の前の市民の困りごとに向き合い伴走する。利益の追求が目的である民間企業とは違い、自治体にしかできない業務です。職員に生産性や効率化、成果だけを求めるのではなく、自治体職員としての誇</p>
------------------------	--	--	---

(共につくる 東大和)	7	戦後80年、核兵器 廃絶・平和を守る取組 について	<p>りと喜びを大切にできる組織づくりをしてほしい と考えますが、見解を伺います。</p> <p>① 1月17日、平和首長会議の国内総会が開催され、政府への要請文が採択されました。日本被団協のノーベル賞受賞を『核兵器の使用は決して許されない』というメッセージを改めて示すもの』と評価した上で、3月の核兵器禁止条約締約国会議に日本がオブザーバー参加するとともに、一刻も早く核兵器禁止条約に署名・批准することを強く要請しています。ところが2月18日、政府は核兵器禁止条約締約国会議への参加を見送る方針を決めました。唯一の戦争被爆国の政府として恥ずべきものと考えます。平和首長会議に加盟する東大和市長として、見解を伺います。</p>
7. 無所属 (高峰 章)	1	自治体間競争について	<p>① 市長は、令和7年度予算概要説明会でも、当市が自治体間競争に負けないようにしたい旨を述べられている。この自治体とは、どの範囲の自治体を指すのか伺う。</p> <p>② 「負けないようにしたい」とは、市政全般の中で、どういった分野を認識しておられるのか伺う。</p> <p>③ 「自治体間競争に負けたくない」というお考えを、どの分野で成し遂げようとしているのか伺う。</p>
	2	産業振興について	<p>① 施政方針において、「創業塾の実施、企業誘致及びスタートアップ企業の支援」が挙げられている。令和6年度の施政方針では、「企業誘致」が述べられてなかったが、ほぼ同じである。これら以外の産業振興策は、令和7年度において検討されなかったのか伺う。</p> <p>② 令和7年度の施政方針で述べられている「企業誘致」について、具体的にどう進めていくのか伺う。</p>
	3	戦後80年筋目の年、 「平和」への取り組みについて	<p>① 首長の方々による多摩平和ネットワーク会議が行われ、また、今年戦後80年の筋目の年、戦災建造物を有する当市が、施政方針において平和に関する所信について述べられていない。この理由について伺う。</p>
8. 無所属 (大川 元)	1	公共施設の老朽化対策について	<p>① 現在の状況について</p> <p>② 再配置計画素案の策定について</p> <p>③ 未来につながる魅力ある計画について</p> <p>④ 今後の方向性について</p>
9. 無所属 (関 綾子)	1	「生涯学習及びスポーツ、レクリエーション」について	<p>① 「各公民館のロビーや狭山及び蔵敷公民館の図書室のレイアウトを工夫」することについて</p> <p>ア 児童館がないエリアにある、狭山公民館や蔵敷公民館をはじめ、公民館に子どもが過ごしやすいスペースができるとよいと考える。子どもの居場所としての整備をするにあたり、具体的にどのようなことが考えられるか。</p> <p>イ ロビーや図書室だけではなく、公民館の一部屋を子どもの居場所として整備することはできないか。</p>
	2	「都市づくり」について	<p>① 「立地適正化計画」の策定について</p> <p>ア 「立地適正化計画」により、市の将来像とし</p>

<p>(関 綾子)</p>			<p>てどういったことを描くのか。 イ 市民と一緒に考えていくやり方で策定を進めてほしいと思うが、無作為抽出の市民で会議体をつくるミニ・パブリックスなど、市民が議論に直接関わられるような手法をとれないか。</p>
	3	<p>「行財政運営、行政改革」について</p>	<p>① 職員の民間企業への派遣について ア これまでの市の職員に足りないものは具体的にどういったことで、それによってどういった問題が生じていると考えているか。 イ 民間企業への派遣により、習得すべきマーケティングスキルや考え方、働き方はどういったもので、具体的にどのように活かされることを目指すのか。</p>
	4	<p>「協働・情報共有」について</p>	<p>① 「東大和ヒトみらいトーク」について ア これまで実施し市民の声を聞く中で、市や市民の実情をどのように捉えているか。 イ 参考になったり心に残った言葉はどのようなものか。 ウ 市民の声から東大和市のどんな課題を掘りだしたか。</p>
	5	<p>「健康であたたかい心のかよあまちづくり」について</p>	<p>① 「東大和市手話言語条例」を活かした取組について ア 言語としての手話の理解促進と普及に関する事業を実施することだが、どのような事業を考えているか。 イ この条例を制定することにより、市のどのような姿を目指すのか。</p>
	6	<p>令和7年度の予算編成について</p>	<p>① 東大和市で育つ子どもたち、暮らす人たちにとっての令和7年度1年間について ア 市民にとって、生活は常に目の前の課題であり、日々を積み重ねていくことが将来につながる。東大和市で成長の基礎を築く子どもたちにとっての1年は特に、他に代えられない重要な1年間である。長期的な視点を持った上で、今の市民の暮らしにも責任を持つのが市の役割だが、「将来的に市が得られるであろう利益の価値」を見極めた予算編成は、この1年間を東大和市で育つ子どもたち、暮らす人たちにとってどういうものだと考えるか。</p>